

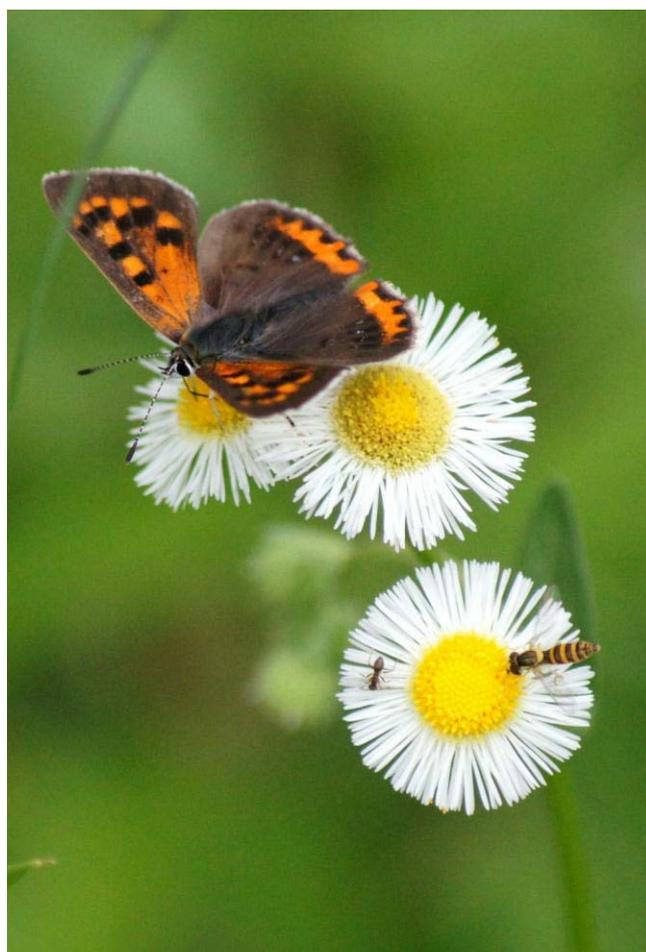
牛久：学校周辺に見る自然

第10号 ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小）

2013年7月3日発行

＜ 夏の動物観察 ～みずべ公園 ①チョウやガの仲間 ＞

ひたち野うしく小3年生と、夏のみずべ公園を歩きました。梅雨（つゆ）のさなかの6/20に1、3組、25日には2、4、5組の皆さんと、夏の動物のすがたを観察しました。今回はその中から、チョウやガのなかまを紹介（しょうかい）しましょう。



チョウの仲間では一番多く見られたベニシジミと、その上を通るヒメハナバチの仲間(左)。どちらもヒメジョオンのみつを吸っていました。右はよく似たハルジオンの花でみつを吸うベニシジミと、ミナミヒメヒラタアブ。アリもいますね。

どちらの日にも一番多く見られたチョウが、上のベニシジミでした。「紅（ベニ）」というよりはオレンジ色に近いシジミチョウの仲間です。よく見ると、春に見られたものよりもオレンジの部分が増えてきています。幼虫（ようちゅう）は、ギシギシやスイバなどの葉を食べます。



こちらの白っぽいシジミチョウは、ルリシジミ。ヤマハギに来ていましたが、幼虫は夏～秋にはハギ類やクズなどのつぼみや花を食べるそうです。はねの表はふちの灰色の部分が多いので、写真はメスですね。腹部（ふくぶ）をまるめているのは、産卵（さんらん）しようとしているのでしょうか？

花みつを吸いながら、ヤマハギのまわりを飛んでいたルリシジミのメス。幼虫はハギ類やクズなどのつぼみや花を食べる。



こちらのアカツメクサでは、**ツバメシジミ**が産卵^{さんらん}していました。そう、このチョウの幼虫^{ようちゅう}は、アカツメクサやカラスノエンドウ、ヤマハギなどの葉を食べるのです。同じシジミチョウのなかまでも、幼虫の食べ物は似ているものもいれば、ちがうものもいるのですね。

アカツメクサの花に産卵するルリシジミ。幼虫はアカツメクサやヤマハギなどの葉を食べる。



アカツメクサの花みつを吸うモンシロチョウ。幼虫の食べ物は？ そう、アブラナのなかまの葉でしたね。

つづいて、アカツメクサの花でみつを吸っていた**モンシロチョウ**。皆さんには、もうおなじみのチョウですね。幼虫はアブラナのなかまの葉を食べるので、卵もアブラナやカラシナ、キャベツなどの葉で見つけました。でも成虫（せいちゅう）は、いろいろな花のみつを吸います。口のつくりが大きく変化^{へんか}したことに気がつきましたか？



モンシロチョウによく似^にた、**モンキチョウ**も見つけましたね。黄色いのがオスで白いのがメスでしたが、ややこしいことに、黄色型のメスもいます。さて、モンシロチョウ幼虫の食べ物はアブラナのなかまの葉でしたが、ではモンキチョウ幼虫の食べ物は何かと思いませんか？じつは、写真でもとまっているアカツメクサやシロツメクサなどの葉を食べます。腹部をまるめているメスがいたら、卵^うを産んでいないか観察してみましょう。

幼虫はアカツメクサなどの葉を食べるモンキチョウ。



アカツメクサの花みつを吸う、オオチャバネセセリ。幼虫は、ササやススキなどの葉を食べる。
みずべ公園ではふつうに見かけるが全国的に減少していて、となりの千葉県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。

アカツメクサには、いろいろなチョウやハチが来ますね。こちらでは、**オオチャバネセセリ**が花みつを吸っていました。よく似たイチモンジセセリでは後はねの白いもようが一行に並びますが、こちらはジグザグですね。セセリチョウの仲間は一見、ガのようにも見えますが、チョウとして扱われています。もっとも、チョウもガも同じなかまで、はっきりした区別くべつというのはできないのですが。



左からマイマイガの幼虫、そのアップ、さなぎ、死にかけていた成虫(メス)。

最後に、今年はいくつも見られた**マイマイガ**の幼虫。左のコナラのみきには、見えるはんに何匹いるでしょう？毛と赤・青のもようが特ちょう的ですね。小さいときと大きくなった時で別の種類のように見えますが、この赤と青のもようはだでそれと分かります。ドクガ科のなかまですが、毒どくの毛はありません。ただし、肌の弱い人は毛がささってかぶれることもあるそうですから、素手すてでさわるのはやめましょう。25日には、死にかけた成虫のメスとさなぎも見つけましたね。成虫のメスはオスと全然似てなくて、オスしか見たことのなかった私も、名前を聞かれてその場では答えられませんでした。【理科支援員：宮内】

も一つおまけに、ガの羽化がら(左)とスゲドクガの羽化後のまゆ(右)。これもドクガ科のなかまだが毒はない。ただし、似たまゆをつくるタケカレハの幼虫は毒が強い。

